

SAKUYO GAKUEN NEWS

作陽学園報

くらしき作陽大学/作陽音楽短期大学
岡山県作陽高等学校/くらしき作陽大学附属認定こども園



創立50周年記念公演 日本伝統芸能「狂言」

演目：上『首引』 下『二人袴』

解説 野村萬斎

くらしき作陽大学は50周年を迎えました。
創立者 松田藤子先生の教えの下、学園は
社会貢献を継続します。

- 416名の船出
平成29年度 入学式 …… 2頁
- 真の人類の発展に
貢献せよ …… 3頁
学校法人作陽学園
理事長 松田英毅
- くらしき作陽大学創立50周年記
念事業の報告について… 4～5頁
- 受け継がれる作陽スピリット
を大切に …… 6頁
音楽学部長/大学院音楽研究科長
竹内京子
- 食文化学部のさらなる
充実に向けて… 6頁
食文化学部長 宮本 拓
- 学生の魅力がつくる
作陽スタイル… 7頁
子ども教育学部 林 直人
- 2年間で自らの進路を
見つける… 7頁
作陽音楽短期大学
音楽学科長 杉山貴義
- 明るく、やさしく、たくましい
作陽っ子たちとともに… 8頁
くらしき作陽大学附属認定こども園
副園長 妹島三絵
- 過去を知り、今に活かし、
未来につなげる… 8頁
岡山県作陽高等学校
校長 野村雅之
- 岡山県作陽高等学校
… 9頁
- 新任教員のご紹介
(大学・短期大学)… 10頁
- 新任教員のご紹介(高校)、退職・
退任された教員のご紹介… 11頁
- 鶴声会だより・翠会だより・
作陽高校同窓会だより… 12頁
- 教育目的、奨学金… 13頁
- 平成28年度決算について
… 14頁
- 演奏会・公開講座の
ご案内… 15頁

入学式の挙行

今年は桜の開花が待ち焦がれた、4月3日、平成29年度くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学・大学院の入学式が執り行われ、総勢416名の新入生を迎えました。

松田英毅学長による式辞の後、新入生を代表し作陽音楽短期大学・音楽学科 谷口美菜さん(岡山県出身)が教育の本旨に従って、人格の向上と学術の研修に精励することを宣言しました。



学外オリエンテーションを実施

4月21日(金)、4月22日(土)に出に学外オリエンテーションを新入生対象に実施しました。主に、倉敷市内の観光名所を散策。学生同士、教員との親睦を深めました。



とら醤油 工場見学



美観地区



真の人類の発展に貢献せよ

理事長
まつだ ひでき
松田英毅



昨年は大学創立 50 周年記念式典と記念の諸行事が行われ、それぞれ立派に目的を果たすことができました。関係各位に心よりお礼を申し上げます。

平成 29 年度になり、大学、短大、高校それに認定こども園は、それぞれ新生を迎え、大学百周年に向けて元気に新たなスタートをしています。

5 月上旬に第 31 回管理栄養士国家試験の結果が発表されました。80 名受験し 77 名合格、96.3% の合格率です。この管理栄養士の国家試験の結果から、くらしき作陽大学のカラーを読みとることができます。高校時代、勉学に、あるいは部活に汗を流し、大学生になってからは、将来の菩薩道を歩むプロを目指して、それぞれの専門の学業にいそしみ、仲間とともにサークルやクラブ活動に精を出し、さらには地域貢献活動を積極的に取りくむような大学生活を送った後には、国家試験や採用試験ですぐれた結果を出すというものです。そのことが食文化学部のみならず、子ども教育学部と音楽学部にも見られます。子ども教育学部では、昨年の公立の採用試験では、幼稚園、保育園、特別支援学校と小学校に受験生の 4 割 (46 名) が合格しています。音楽では、既卒者を含め、講師採用も合わせて 9 名のものが採用されています。これも創立者松田藤子先生の建学の熱い思いの「念願は人格を決定す 継続は力なり」のことばのもとに、高い目標をかかげての努力精進の結果であるといえます。

大乘仏教を建学の基にした本学園は、菩薩をつくる学校です。学園に学ぶ、学生、生徒、園児はすべて菩薩になって欲しいとの願いがこめられているのです。菩薩とは、将来、自利・利他をなし、家族のため、世のため人のために尽くすことを喜び、自分を支えてくれているあらゆるものに感謝し、いきいきと生きる人のことをいいます。このような人になるために、人はこの世に生まれてきたともいえます。このことは仏教に無縁であった人

にはすぐには理解しにくいと思われますが、仏法の話を書くうちに理解され、自分の欲を満たすより、他者のために尽くすことの方が真の生き方であることに気がつきます。

本学園は創立時より、知識と智慧を学び、事実と真理を教えることが真の人間形成になるとの教育を貫いてきました。21 世紀になり科学技術の発展は目ざましく、先進諸国は、これをもとに産業を盛んにし経済的に豊かになり、富と力を持った国造りのために、さらに知識に偏った教育に力を入れています。このことは、わが国も同じです。そこでは、知識と技術の発展があればよく、真理や智慧は不要のものです。わが国も世界の先進国と同じベクトルにあり、人びとは快楽を求め、科学技術文明社会という、快適な環境にどっぷり浸っているといます。この文明の根底は欲望の追及であり、真理を求めず、和と礼、慈悲と智慧からかけはなれたドライな物質文明を創造します。今日の世界に見られるテロ、核ミサイルの開発、国際法を無視した領有拡大、自国利益最優先や、日本における五戒にもとる行為が多くみられる世相などは、現代文明を象徴していると思われます。これでは、人類の真の発展はほど遠く、自滅の道を早めるのではと危惧されます。

私たちの身体をつくる 60 兆の細胞は、同じ細胞でありながら、それぞれの臓器、組織に分れ、争わず、互いに助けあい、各々の役割を果たし、ひたすら身体の健康維持につとめています。よく見れば、地球上の生きものすべてが利他の働きをし、互助のはたらきで自然界を維持し、自分も成長しているのです。地球上の生きものである人間だけが自分の欲望を満たす行為に専念することは、自然の理に反することであり、それは、地球上での存続を自ら否定することといえるでしょう。世の為、人の為、利他のはたらきを基本とする人こそ、自然の原理に合ったものであり、家族、地域社会、国を越え、地球人類が心豊かに生活できる文明社会を構築し、真の人類の発展に貢献できると思います。それは実に菩薩道を歩む人であり、作陽学園が実践している教育です。作陽の卒業生一人一人の力は微びたるものですが、現代の濁世を無くするのではなく、その中であって、心あたたかい世界を広げ社会を浄化するという、未来の地球人類のため大きな働きをするにちがいありません。

くらしき作陽大学創立50周年記念事業の報告について

くらしき作陽大学（学長 松田英毅）は、作陽学園創立者松田藤子が感性豊かな音楽人の養成を目的として昭和 41（1966）年 4 月に「作陽学園大学」を創立（2 年後に「作陽音楽大学」に改称）、昨年度で 50 周年を迎えました。平成 8（1996）年にキャンパスが津山市から倉敷市に移転し、更に翌平成 9 年には食文化学部を開設し「くらしき作陽大学」に改称したほか、平成 20（2008）年には子ども教育学部を開設、3 学部を擁する総合大学として今日に至っております。これはひとえに地域の皆さまや卒業生をはじめとする学園関係者のご支援ご協力の賜物です。無事に 50 周年事業を執り行えたことを大変嬉しく思っております。我々は創設 100 周年を目指し、日々研究、情報発信、ひとつづくり、地域貢献を継続します。

『念願は人格を決定す 継続は力なり』 学是より



1. くらしき作陽大学創立 50 周年記念公開講座を実施いたしました。

平成 27 年 11 月 28 日（土）13:00 会場 聖徳殿

「遺伝子を ON にして可能性を伸ばす」

講師 村上和雄（分子生物学者）

平成 28 年 2 月 13 日（土）13:00 会場 聖徳殿

「生態系と人間のつながり」

講師 安田喜憲（環境科学者）

平成 28 年 4 月 9 日（土）13:00 会場 聖徳殿

「今、子どもたちは…夜回り先生、いのちの授業」

講師 水谷修（教育家）

平成 28 年 6 月 18 日（土）13:00 会場 藤花楽堂

「愛をはぐくむ」

講師 （故）渡辺和子
（ノートルダム清心学園理事長）

平成 28 年 9 月 24 日（土）13:00 会場 聖徳殿

「新たな看取り文化の創造を考える」

講師 石飛幸三（医師）

2. くらしき作陽大学創立 50 周年記念式典及び記念公演を実施しました。

平成 28 年 10 月 17 日 (月)

「狂言」 演者 野村万作 (人間国宝)
野村萬斎 他
演目 『二人袴』『首引』



3. 3 学部による 50 周年記念事業を実施しました。

□音楽学部

記念講演会 50 回リレーコンサート (5 月 18 日 (水)「ガボール・タルケヴィ トランペットコンサート」からスタート) などの記念の演奏会を年 50 回開催いたしました。

□食文化学部

記念『食文化を創造』vol.1～vol.4 さくようヘルスケアレストランを開設 (6 月 2 日 (木)) し、地域の方々をお招きして、食事と健康のヘルスチェック、ヘルスセミナー、ヘルスケアレストランを年 4 回開催いたしました。

□子ども教育学部

記念 特別支援教育ラボ (演習施設) を開設 (5 月 25 日 (水) 見学会と講演) するほか、学生企画委員会による「記念さくようキッズキャンパス」を開催 (10 月) いたしました。

■寄付金の募集

くらしき作陽大学は寄付金を募集継続中です (5 ヶ年計画、本年度 2 年目)。皆様には本学の大学運営の施設設備の充実及び教育上必要な事業等に格段の御理解をいただきご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- ・募集対象者 同窓生 (大学・短大)、在学生、保護者の方々、教職員 (大学・短大・退職者を含む)、関係事業所など。
- ・募集目標額 5,000 万円
- ・寄付金額 個人 一口当たり 2,000 円
企業・法人 五口 (10,000 円) 以上

※クレジットカードでの決済も可能です。ご希望の方は大学ホームページよりアクセスください。

<お問い合わせ先>

〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾 3515 くらしき作陽大学内
大学創立 50 周年記念事業寄付金実行委員会 電話 086-436-0248 (担当: 佐藤)

受け継がれる作陽スピリットを大切に

音楽学部長
大学院音楽研究科長
たけうち きょうこ
竹内京子



皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。

声楽の田中誠教授、ホルンの森博文准教授をお迎えし、学生、教職員ともに活発な音楽活動に動んでいます。

5月20日、COC事業における活動の成果発表の場である今年度第1回倉敷みらい講座が倉敷市立美術館エントランスホールで開催され、昨年度音楽貢献実践Aの授業で学び、様々な学外コンサートで大活躍してくれた音楽学部2年生5名が見事な口頭発表と演奏を披露してくれました。

そこでは、「毎年市民会館で開催されている倉敷市学校音楽祭で自分たちの演奏を聴いた市内の小中高生の中から大学で音楽を専攻するような人が育ってくれたら嬉しい」「倉敷の街角でコンサートを聴いてくださったお客様が楽しい気持ちになり、倉敷市に住んでいてよかったなあと感じていただき、街がさらに音楽で溢れるように願っている」といった想いが率直に語られ、来場者から学生さんたちが初々しく爽やかで良かったとの感想が多く寄せられました。

また6月26日に倉敷市役所1階ホールでのランチタイムコンサートが始動しました。新任の森博文准教授率いるホル

ンアンサンブルの学生6名が熱演し大好評を博しました。昨年、市民ホールに本学がピアノを寄贈しており、今後様々なアンサンブルが出演します。

ところで昨年度卒業生は、公立学校教諭3名、陸上自衛隊音楽隊3名、警察音楽隊1名、消防音楽隊2名現役合格を果たしました。この他、教員志望者は常勤および非常勤の講師という形で、全員教職に就くことができましたし、やはり採用枠が僅少である各地の音楽教室、優良企業に採用された方も多く、それぞれ健闘し見事な成果を上げてくれています。

時代とともに社会は大きく変化しますが、開学当時から脈々と受け継がれてまいりました作陽スピリットの素晴らしさが変わることはありません。さらに力強く繋ぎながら、特性を生かした社会貢献ができる学生を育てていくことが私どもの使命であると感じております。

大学院音楽研究科もお蔭さまで5期生を送り出しました。2年生の論文の授業を1年生のうちから見学し、じっくりと研究する風土が生まれてきました。理論と実践の両輪が機動することにより、次元の高い研究を進めております。

さて、教員免許更新講習（講師：長瀬敏和教授、菅付章宏教授）が、今年度も8月末に行われ多数お申し込み下さりありがとうございます。同時期にピアノ指導者講座を開催しようと考えておりますので、お誘いあわせの上、奮ってご参加くださいますよう、よろしく願いいたします。

学生たちが熱い思いを胸に社会に飛び立てるその日のために、教職員一丸となって最適なサポートを続けて参ります。変わらぬご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

食文化学部のさらなる充実に向けて

食文化学部長
みやもと たく
宮本拓



平成9年に新設された食文化学部は、食生活学科の1学科でスタートしましたが、現在は、栄養学科と現代食文化学科の2学科体制となっています。

栄養学科は、管理栄養士養成課程としての使命を果たすため、臨地実習への取り組みと国家試験対策のさらなる推進に努めています。ところで、平成29年3月に実施された第31回管理栄養士国家試験の合格発表が5月9日にあり、本大学の結果は、80名の受験者のうち77名の合格者（合格率96.3%）でした。一昨年度（合格者76名、合格率100%）、昨年度（合格者79名、合格率98.8%）と同様に、優れた実績を維持しています。

一方、現代食文化学科は、フードコーディネーターコースならびに栄養士養成課程としての食と健康コースからなっています。食事は、「栄養」や「おいしさ」だけでなく、食環境

の影響が大きいことが認識されてきました。このことを踏まえ、フードコーディネーターコースでは、栄養・食品関連の専門知識を持ち、料理人とのコラボレーションで食環境のコーディネーターを行い、また飲食店や食品会社でのメニュー開発や商品開発、販売促進コンサルティング等を目指す人材を育成しています。このような学科の特長を踏まえ、さらに組織力を強化して学部機能のレベルアップに努めています。今後、フードコーディネーターコース30名が栄養士資格を取得できるよう改組します。従って、現代食文化学科の栄養士養成数を現在の50名から80名にし、わが国の喫緊の課題となっている健康寿命の延伸に貢献する栄養士の養成に向けて、必要とされる「食」の分野の取り組みをより充実します。

各学科は、それぞれの特長を發揮しながら、2学科連携のもと、学部一体となって学生の教育に当たることにより学生の満足度を上げています。両学科は、保育園や小学校の園児や児童に対して食育の指導を行うことで、実践力を身につけます。また、地域と連携した「さくようヘルスケアレストラン」を開設し、メニュー作成から大量調理、食のサービスに至るまでを実践しています。

以上述べたような伝統と実績を継承しつつ、さらなる発展に向けて学生とともに、取り組んでまいりたいと思っております。皆様の一層のご支援・ご協力をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

学生の魅力がつくる作陽スタイル

子ども教育学部長
はやし なおと
林 直人



このたび、高橋香代先生の後任として子ども教育学部長に就任いたしました。前学部長同様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、平成28年度末には、コース制を導入して最初の卒業生となる第6期生126名が巣立っていきました。就職状況につきましては、右図のとおり就職を希望した約85%の卒業生が取得した免許・資格を生かした専門職に従事することができました。さらに、その中で小・特コースは公立小学校・特別支援学校教諭の採用試験に実人数で17人、保・幼コースは公立保育園・子ども園等に29人が合格いたしました。こうした好成績を挙げられたのも先生方のご尽力もあったと思いますが、何より学生の資質及び学びのスタイルによ

るところが大きいと感じております。それは、学内はもちろん学外でのボランティア活動等に積極的に出向き、その過程においてより多くのことを吸収できる素直さと感受性もっているからだと思います。さらに、同じ目標を共有する仲間を大切にすることができるのも魅力です。これは、保育士・教師に求められるものと一致いたします。

今年度も学生たちの「今」を見守り、持ち味・よさを生かしながら、学生たちが「未来」を紡ぎ上げて行くための援助をしていきたいと思っております。ご支援の程よろしくお願いたします。

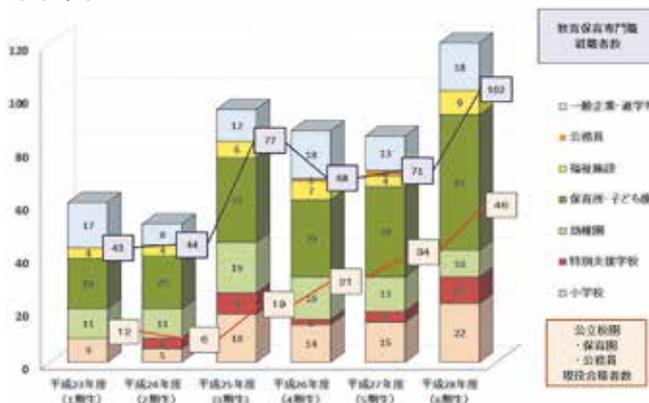


図 子ども教育学部就職先別卒業生数の推移

2年間で自らの進路を見つける

作陽音楽短期大学
音楽学科長
すき やま き よし
杉山 貴義



作陽音楽短期大学 音楽学科は平成27年度から音楽専攻と幼児教育専攻に分離し、今年で3年目を迎えました。平成29年度は音楽専攻27名、幼児教育専攻36名、計63名の新入生が入学しました。

短期大学の学修期間は2年間です。その2年間で学びを深めるとともに、次のステップへ行く準備をしなければなりません。音楽専攻の学生は自らの専修実技研鑽はもちろん、コンサートへの出演等ステージで活躍しながら、卒業後の進路を見極めなくてはなりませんし、幼児教育専攻の学生は1年次には施設実習、2年次には保育実習、幼稚園実習と期間としては約2ヶ月半にわたる実習を経験し、保育士資格、幼稚園教諭二種免許状を取得後、ほとんどの学生が幼児教育の専門職に就いていきます。

グラフは平成28年度卒業生の進路状況を示したものです。平成28年度は計51名の卒業生が巣立っていきましたが、音楽専攻の進学・就職率は97%、幼児教育専攻の進学・就職

率は100%、短大全体で98%の進学・就職率を達成しました。

ともすれば芸術関係の学生は進路決定率が低くなる傾向にありますが、音楽専攻の学生はしっかりと進学・就職を決めてくれました。音楽専攻の特徴としては留学・進学の割合が大きく、2年間で学んだことをさらに深化させるために、くらしき作陽大学音楽学部へ編入した学生が多くいることです。進学した諸君が2年後にさらに成長し、立派な社会人になることを願ってやみません。

幼児教育専攻の卒業生は専攻分離後、最初の卒業生でしたが、全員見事に進学・就職を果たし、前述したように進学・就職率は100%でした。内訳を見ますと、全体の3/4が保育所、幼稚園等の現場に出て社会人として活躍しています。残りの1/4は、くらしき作陽大学子ども教育学部への編入でした。音楽専攻同様、進学した学生は2年後に立派な学士となって社会に出てくれるものと確信しております。

「念願は人格を決定す 継続は力なり」の学是を胸に、卒業生たちが菩薩道を歩むプロとして社会で活躍できるようにこれからも支援していきたいと思っております。作陽学園関係者の皆様、同窓生の皆様、今後ともどうか

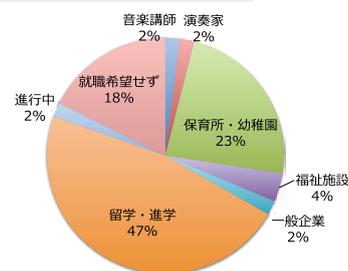


図 作陽音楽短期大学 平成28年度卒業生 進路状況 (H29年5月1日現在)

明るく、やさしく、たくましい作陽っ子たちとともに

くらしき作陽大学
附属認定こども園
副園長

妹島 三 絵



園庭の木々が艶やかな緑に茂り、爽やかな森の園庭では、子どもたちが元気いっぱい走り回り、楽しそうに遊んでいます。くらしき作陽大学附属認定こども園は、平成25年4月に附属幼稚園として開園し、平成27年4月に幼保連携型認定こども園へ移行致しました。園は開園5年目を迎え、今年度は0歳から5歳児までの全園児139名でスタートいたしました。毎日賑やかな声が聞こえてきます。3月18日には、第2回卒園式を挙行し、2期生35名がそれぞれの小学校へ巣立って行きました。これもひとえに、いつも温かく見守り、ご指導ご助力くださいます多くの方々のお陰でございます。心から感謝申し上げます。

こども園では、0歳から5歳児までの乳幼児たちが、それ

ぞれの月齢・年齢に応じて自分らしく伸び伸びいきいきと活動し、園の特性を活かした豊かな自然の中で、教育・保育を受けながら安全に安心して過ごせる様になっています。子ども達にとって日々の遊びは大切な学びであり、子ども達が人間形成の基礎を身につけながら生きる力を育てていけるように、そして、子ども達が自分の中にある豊かな創造性を引き出して遊べるように遊びの環境を整え、準備し、子ども達と一緒に飼育や栽培をして動植物の変化や成長、美しさや不思議さに子ども達が気付けるようにしています。

園での教育・保育の提供として、4歳児・5歳児の正課授業で、ヴァイオリン、英語、茶華道、サッカー、歌唱指導、鍵盤ハーモニカと音楽指導、硬筆を大学の先生方や講師の方にご指導いただきます。決して小学校の前倒し教育ではなく、豊かな感性と健全な体、たくましい心を育てるために、本物の音に触れ、五感を働かせながら様々な実体験をとおして学び、成長していけるように今年度も教育・保育をしながら、幼保連携型認定こども園として、すべての子どもの最善の利益をめざして教育・保育の質の向上に、より一層努力して参ります。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。



『過去を知り、今に活かし、未来につなげる』

岡山県作陽高等学校 校長 野村 雅之



作陽高校は今変化することを恐れず、様々な取り組みを行っています。3つのPro Plan (Proud Plan、Progress Plan、Professional Plan) を戦略キーワードとし、各コースそれぞれの学力向上、学校生活の充実を狙っています。生徒会活動にも広報部門を設け、より開かれた作陽高校を目指しています。

その中の新しい取り組みの一つとして、学園創設の経緯や苦勞を全校生徒に対して講話という形で行っています。今まで知らなかった作陽高校のことや身近な津山の歴史の話に生徒たちの予想以上の反応があります。毎講話後に提出する生徒の感想文を見ても、生徒は当時と現在の時代背景の違いなどに驚き、また創設者松田藤子先生の歩んだ道筋に大きな興味を示しています。明治、大正、昭和と激動の時代に、なぜ大変な苦勞をしてまで人のために行動を起こすのか、

現代の高校生には理解できないところがあるようです。

ものが豊かな時代と言われて久しくなります。またパソコンや携帯電話を通じて、実際に行動しなくても多くの情報入手できる時代になりました。その分人と人との直接的なつながりが薄くなっているという感じます。実際にいろいろな人とコミュニケーションをとるのが苦手な生徒が増え、人前に出て全体を指揮して動かすことができる生徒が減ってきている印象があります。

しかし大きなことを成し遂げるには自らが動き、人の心を動かすことが必要です。情報があふれ、多くの価値観が存在する時代だからこそ、人をまとめる力、リーダーシップを身に付けることが重要になってきます。大小にかかわらず自分が所属しているコミュニティで全体のバランスをとりながら場を仕切ることができるということが、これからは求められると思います。

現代の便利な生活は、私たちだけで作ったものではありません。過去に時代を動かす人がいたからこそ、現在があるのです。未来をさらに発展させていくには、現代を生きる私たちが動かなければならないのです。

「過去を知り、今に活かし、未来につなげる」

先人たちの苦勞を知り、それに対して感謝の気持ちをもって今を精一杯生き、その証を未来に残すことができるような生徒を育てることが、歴史ある作陽高校の使命だと考えています。



87th
Sakuyo High School

Since 1930

念願は
人格を
決定す
継続は
力なり

松田藤子書

未来に差がつく“ワンランク上の充実感と満足度”



岡山県作陽高等学校

平成29年度の役職者および部長を紹介します 1年間よろしくお願ひ致します

教頭 まつもと けんじ 松本 賢治	事務長 たむら あきこ 田村 暁子	教務部長 せきの まさとし 釈野 昌稔	渉外部長 ふじい たかひろ 藤井 崇広	進路指導部長 すぎもと てつや 杉本 哲也	生活指導部長 かわの かずみち 川野 一道

普通科6コースとコンセプト『Sakuyo-3Proプラン』・部活動・生徒会

日本の教育改革や大学入試改革を念頭に、次世代を担う、希望する分野で活躍できる人材育成に取り組み本学で学ぶすべての生徒が、プライドを持って、未来に羽ばたく姿を応援していきます。

Sakuyo-Proudプラン

ワンランク上への挑戦 ～リーダーの資質と志望校合格を目指して～

スーパー特進コース	英文系 理数系
特別進学コース	英文系 理数系

Sakuyo-Progressプラン

基礎学力向上の徹底 ～文武両道で将来の夢への実現を目指して～

進学コース

Sakuyo-Professionalプラン

個性と可能性を探究 ～資格取得・専門性の高いスペシャリストを目指して～

総合教養コース	IT・ビジネス系 フードデザイン系 こども保育系
スポーツコース	柔道/硬式野球/ゴルフ
ミュージックコース	音楽デザイン系 吹奏楽系 演奏芸術系

※詳しくは、平成30年度 学校案内・生徒募集要項をご覧ください。

- | | | | | | | | |
|---------|--------|---------|-------|---------|-------------|-------------|--------|
| 生徒会執行部 | 吹奏楽部 | 演劇部 | 放送部 | 茶道部 | 調理部 | 生物部 | 囲碁将棋部 |
| ボランティア部 | 書道部 | 美術部 | 軽音楽部 | アンサンブル部 | | | |
| 柔道部 | サッカー部 | フットサル部 | 硬式野球部 | ゴルフ部 | 男子バスケットボール部 | 女子バスケットボール部 | 軟式野球部 |
| ソフトテニス部 | 硬式テニス部 | バドミントン部 | 剣道部 | 卓球部 | バレーボール部 | チアリーダー同好会 | ダンス同好会 |

未来に **本気** なら作陽に決まり おもいっきり学ぼう・活躍しよう・楽しもう・応援し合おう

 おもいっきり学べる教育環境 Sakuyo-Proudプラン 進学のカ	 おもいっきり活躍できる部活動 多岐多様な運動部と文化部
 おもいっきり楽しめる作陽生活 Sakuyo-Progressプラン 基礎学力の徹底	 おもいっきり応援し合える一体感 生徒会活動 学校行事 清陵祭
 おもいっきり学べる教育環境 Sakuyo-Professionalプラン 専門的探究	 おもいっきり活躍できる部活動 作陽ファミリー OB OG 全校応援

「やっぱり作陽でよかった」夢を叶えて卒業する作陽生 3年間よく頑張りました

■今年度の主な進路実績 (平成29年3月発表)

岡山大学(工)	京都教育大学(教)	大阪教育大学(教)

■今年度の進路実績

進学86.5%	岡山大(理工)・岡山大(工)・京都教育大(教) 大阪教育大(教)・富知大(人文) 等
就職13.5%	早稲田大・中央大・清天堂大・同志社大・関西学院大4 関西大・日東駒専・産近甲龍 等多数

■過去8年間の主な進路実績

国公立大学		私立大学	
岡山大 9	慶應義塾大 2	同志社大 7	
東京工業大 1	早稲田大 2	立命館大 9	
大阪大 2	明治大 6	関西学院大 17	
筑波大 3	法政大 1	関西大 21	
東京海洋大 1	聖女子大 1	関西外大 11	
横浜国立大 1	中央大 4	京都産業大 36	
京都教育大 1	青山学院大 4	近畿大 16	
大阪府立大 1	日本大 9	甲南大 20	
大阪教育大 8	東洋大 6	姫谷大 17	
神戸市立大 1	駒澤大 9	聖心女子大 3	
広島大 1	専修大 20	大阪経済大 16	
鳥取大(医) 1	大東文化大 3	佛光大 18	
鳥取大 4	東海大 10	神戸学院大 25	
香川大 2	拓殖大 2	帝塚山大 2	
高知大 7	亜細亜大 2	川崎大 6	
鳥取大 2	帝京大 7	大宮学院大 7	
岡山県立 2	国士院大 16	徳島文理大 9	
京都大学 10	日本体育大 3	岡山県立大 42	
合計 63名	合計 1,164名		

■ 新任教員のご紹介（大学・短期大学）



音楽学部
専任准教授 **もり ひろ みみ**
森 博文

作陽を卒業しドイツへの留学を経て東京フィルハーモニー交響楽団で24年間、東京を拠点に世界を見てきた経験の後輩たちに伝え私を超えていく人間を育てていくために帰ってまいりました。



食文化学部栄養学科
専任教授 **さかもと やちよ**
坂本八千代

病院勤務で培った臨床栄養管理の重要性とやりがいを次の担い手にしっかり伝え、頼られる管理栄養士と一緒に目指したいと思います。



子ども教育学部
専任教授 **ながはま みねこ**
長濱美根子

生活科や教育実習を担当します。子ども達の成長に、驚きと感動を覚えた小学校での勤務経験を生かして、教師を目指す学生の皆さんに「笑顔とあきらめない心」の大切さを伝えていきたいと思っています。



子ども教育学部
専任教授 **ふくしま はるこ**
福島治子

豊かな緑と四季折々の花々、気持ちのよい挨拶が交わされる落ち着いた教育環境の中で、英語教育を進めるとともに、これまでの教職経験をも活かし、学生の皆さんの夢や希望を応援していきたいと思っています。



子ども教育学部
専任教授 **いちば よしこ**
市坂よし子

こんにちは。市坂と申します。くらしき作陽大学とのご縁をいただき、感謝しております。学生の皆さんと共に学びに向かい、豊かな人間性、魅力ある大人を目指してまいりたいと思います。テーマは「美しい日本語」です。



短期大学音楽学科
専任教授 **たなか まこと**
田中 誠

今年度より短大音楽科に所属しております。演奏者として得てきた様々な知識と経験を、作陽で声楽を学ぶ若い学生たちに正しく伝える事ができたらうれしいです。学生の積極的な取り組みを大いに期待しています。



短期大学音楽学科
専任教授 **もりや みさお**
守屋 操

専門分野は幼児教育です。幼稚園教諭・保育士を目指す学生の皆さんが、意欲と自信をもって保育現場に臨めるよう、共に学び、共に努力していきたいと思っています。



子ども教育学部
専任講師 **いの はら けい すけ**
猪原 敬介

教育心理学や保育の心理学など、心理学の授業を担当します。現場での経験に加えて、心理学による科学的な知見も備えている…。そんなバランスの良い教育者の育成を目指していきます。よろしくお願いたします。



子ども教育学部
専任講師 **なが い ゆう や**
永井 祐也

障害や病気等の個別の教育的ニーズのある子どもたちに適切な配慮・支援ができる教員・保育士の育成に、私自身も支援者の1人としてさらに成長できるように、尽力していきたいと思っています。よろしくお願いたします。



子ども教育学部
専任講師 **むら かみ さおり**
村上 沙織

乳児保育や家庭支援論を担当します。保育のなかで子どもたちや保護者の方々から学んだ経験を学生のみなさんに少しでも多く伝え、保育のおもしろさや奥深さをわかちあっていきたいと思っています。よろしくお願いたします。

■新任教員のご紹介（高校）

	<p>国語科 常勤講師 立石理香</p> <p>津山でも教職を続けたいという念願がかない、本当にうれしかったです。作陽高校での出会いはもちろん、授業、部活などもすべて「一期一会」の精神で大切にしていきたいと思ひます。のんびりとした性格ですが、情性的にならないように、初心を忘れず、向上心をもって取り組もうと思ひます。年齢は決して若くはありませんが、これから生徒と共に成長していきたいです。卒業後も印象に残るような魅力的な授業をめざして頑張ります！</p>		<p>英語科 常勤講師 三好達也</p> <p>一昨年までの5年間、作陽高等学校「旭寮」で生徒と共に生活し、勤務して得た経験を学校生活の中でも活かしたいです。 そして、生徒にとって、様々な面で成長でき、岡山県作陽高等学校に来て良かったと誇れる充実した学校生活を送れるよう、自分自身も共に成長し、努力していきたいと思ひます。 よろしくお願ひいたします。</p>
	<p>英語科 常勤講師 宗貴洋</p> <p>高校での授業、クラスの担任と初めての経験ばかりですが、新たな刺激に囲まれた毎日は、緊張感と共に楽しさがあり、とても充実しています。 私自身、高校生のときに英語が得意ではなかったのですが、留学を通じて外国語に触れるという経験をし、徐々に外国語学習の楽しさを学んできました。生徒たちにも、自分が楽しいと感じた英語学習を届けられるように、日々努力していきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。</p>		<p>理科 常勤講師 工古田伊代</p> <p>新任教員ですのでまだまだ不慣れですが、生徒一人ひとりとの関わりを大切にし、しっかりと向き合うことで、生徒とともに日々成長していきたいと思ひます。また、理科教員として、身近な事象を例に理科の面白さを伝え、生徒達の科学的な好奇心を育てていきたいと思ひます。生徒達が充実した学校生活を送れるように精一杯努めますので、どうぞよろしくお願ひ致します。</p>
	<p>保健体育科 常勤講師 酒井貴政</p> <p>3年間生徒として勉強とサッカーに励んだ校舎で、次は教員として新たな人生をスタートさせてもらうことができ、とても幸せに思っています。小さい頃から「夢」を持ち挑戦してきた経験を活かして、一生懸命頑張る生徒たちと向き合い、共に成長していきたいと思ひます。 よろしくお願ひいたします。</p>		<p>情報科 常勤講師 筏将大</p> <p>生徒たちの生きる力を育むために、生徒の学力向上・健康な体づくり・他人との協調性を高めるといったことに力を入れて指導をしていきたいと考えています。その中で、生徒と共に私自身も成長したいと思ひます。先輩教員の方々から様々なことを吸収させてもらい、生徒の手本になるような教員になりたいです。 不慣れなことが多く、ご迷惑をおかけすることおもいますが、一生懸命頑張るのでよろしくお願ひいたします。</p>

■退職・退任された教員のご紹介（大学・短期大学・高校・こども園）

大学

音楽学部

吉田一成

青柳謙二

佐藤道郎

ティモシー・カーター

食文化学部

江本和美

子ども教育学部

高橋香代

澤見豊

芝崎良典

中塚志麻

短期大学

乗松美代子

八木義雄

山崎（田崎）慎治

羽山弘子

高校 教頭

神田寿則

社会科

中島浩史

国語科

田淵美彩

寮監長

横山茂樹

こども園

三宅裕子

大変お世話になりました。

鶴声会だより

鶴声会近況報告

鶴声会会長 安部 欽也



この度、くらしき作陽大学同窓会鶴声会の会長を務めることになりました。

1976年音楽学部卒業、第8期生の安部欽也と申します。私は、2015年3月、地元岡山市内の中学校を最後に退職し、現在、岡山市建部町公民館の館長として勤務しています。どうぞ宜しくお願いします。

昨年くらしき作陽大学は、創立50周年を迎えました。輩出された卒業生は10,000名を超え、全国各地域の企業・教育・音楽関係等の社会の求めるリーダーとして地域活性・地域創生に数多くの卒業生が活躍しています。

さて、くらしき作陽大学鶴声会同窓会は、会員の交流と親睦、そして大学と共に発展することを目的としています。また、卒業生と大学との窓口として活動しています。それぞれ

の専門分野で活躍されている卒業生の皆さんとの繋がりがこの同窓会活動を通じて生かされ、人生の一つの糧として、お役に立てばと願っています。

今年（平成29年度）の前期、鶴声会が大学と連携する主な事業として、各県の吹奏楽連盟と連携しての講習会。5月14日、高知県吹奏楽・楽器別クリニック（中高生500名参加）。6月3日、香川県吹奏楽・楽器別クリニック（中高生400名参加）を実施。また、6月24日、関西支部での大学説明会や7月7日、福岡県支部同窓会を予定しています。すでに、平成29年当初には山口県支部会1月20日（40名参加）、岡山県支部会3月3日（70名参加）など大学と鶴声会との連携活動や各県支部会と共催した中高生対象のクリニックによる、吹奏楽文化の向上・発展にも寄与しています。今後とも、会員の皆様には、くらしき作陽大学の同窓会鶴声会活動に、より一層のお力添えを、よろしくお願い申し上げます。

翠会だより

翠会総会開催のお知らせ

翠会会長 元吉 恵子

翠会会員の皆様方におかれましては、日頃より多大なるご支援とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、今年は翠会総会開催の年となっており、この度は数多くの会員の皆さまより、ご要望いただきました作陽発祥の地「津山」で開催することとなりました。

会員の皆様へは、8月下旬にご案内を差し上げる予定です。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

なお、前回も総会・懇親会の際に、同期会を開催したいとのお問い合わせを多数いただいています。引き続き翠会では、このような同期会などへの助成を行っていますので、是非この機会をご活用いただき、有意義な時間としていただければと思います。

平成29年度「翠会総会並びに懇親会」

日時 平成29年11月18日(土) 11:00~15:00
 場所 津山鶴山ホテル (津山市東新町114-4)
 会費 6,000円



アクセスマップ



作陽高校同窓会だより

岡山県作陽高等学校同窓会事務局

作陽高校同窓生の皆様には日ごろから同窓会運営につきましてはご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

昭和5年津山の地に松田藤子先生が女子高等技芸学院を創立されて87年目を迎え、3年後には創立90年となります。これもひとえに皆様方のご尽力ご支援の賜物と感謝しております。

さて、同窓会本部は毎年8月に総会並びに懇親会を開催しております。

今年も8月12日(土)10時より津山国際ホテルにて開催予定です。多くの方々の参加をお待ちしております。

また、今年度は昭和43年3月卒の同窓生が作陽高校を卒業して50年の節目になっていますので、この場に集い旧友との交流を深めていただければと存じます。

支部の活動をも活発化させるため、関西支部、関東支部、真庭新見支部、美勝英支部、岡山(県南)支部が懇親会を行う際は、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学の教育目的

■くらしき作陽大学の目的

本学は教育基本法および学校教育法の定めるところに従い、高等学校教育の基礎の上に4年の音楽、食文化又は子ども教育に関する大学教育を施し、良き社会人を育成することを目的とし、宗教的情操教育を施して信念と道義心を涵養し、以て大学教育の普及と地方文化の向上を図ることを使命とする。

音楽学部の目的

・音楽学部の教育研究上の目的

音楽学部は、建学の精神に基づく人間教育のもとに、音楽に関する質の高い専門性を身につけた心豊かに生きいきと生きる職業人を養成するとともに、国際的な音楽文化の教育研究拠点として地域に貢献することを目的とする。

・音楽学科の教育研究上の目的

国際的な音楽文化の教育研究を通して、音楽に関する豊かな感性と高度な技術とともに、社会的な音楽家を養成する。

食文化学部の目的

・食文化学部の教育研究上の目的

食文化学部は、建学の精神に基づく人間教育のもとに、食に関する質の高い専門性を身につけた心豊かに生きいきと生きる職業人を養成するとともに、食文化の教育研究拠点として地域に貢献することを目的とする。

・現代食文化学科の教育研究上の目的

食に関する教育研究を通して、食を総合的に学修した食文化に強い心豊かな栄養士ならびに教員等を養成する。

・栄養学科の教育研究上の目的

食と健康に関する教育研究を通して、健全な未来社会を築くために貢献できる心豊かな管理栄養士を養成する。

子ども教育学部の目的

・子ども教育学部の教育研究上の目的

子ども教育学部は、建学の精神に基づく人間教育のもとに、保育と教育及び子育て支援に関する質の高い専門性を身につけた心豊かに生きいきと生きる職業人を養成するとともに、保育と教育および子育て支援の教育研究拠点として地域に貢献することを目的とする。

・子ども教育学科の教育研究上の目的

保育と教育、子育て支援に関する教育研究を通して、現代の保育・教育現場に求められる高度な専門性と実践力を持った、心豊かな保育・教育等に従事する人材を養成する。

大学院音楽研究科の目的

広い視野に立って音楽に関する精深な学識を受け、地域の音楽文化の向上に貢献することのできる高度な専門性を有する人材を養成することを目的とする。

■作陽音楽短期大学の目的

本学は教育基本法および学校教育法の定めるところに従い、高等学校教育の基礎の上に、2年の音楽に関する大学教育を施し、良き社会人を育成することを目的とし、宗教的情操教育を施して信念と道義心を涵養し、以て大学教育の普及と地方文化の向上を図ることを使命とする。

・音楽学科の教育研究上の目的

音楽学科は、建学の精神に基づく人間教育のもと、音楽に関する豊かな感性と専門性をもって地域の文化や教育の向上のため心豊かに生きいきと生きる職業人を養成する。

・音楽専攻の教育研究上の目的

音楽文化の教育研究を通して、音楽に関する豊かな感性と高い専門性をもつ心豊かな人材を養成する。

・幼児教育専攻の教育研究上の目的

幼児教育と音楽文化の教育研究を通して、音楽に関する豊かな感性と専門性をもつ心豊かな保育・幼児教育に従事する人材を養成する。

『奨学金等について』

(1) くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学 新入生授業料減免奨学生制度

本学に入学を許可された者の内、経済的な理由により所定の学費を納入することができず、学業の継続が困難となる学生に対し、授業料の一部(年間の授業料の半額又は4分の1相当額)を減免します。

(2) くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学 授業料減免奨学生制度

本学の学生(在学生のみ)の内、経済的な理由により所定の学費を納入することができず、学業の継続が困難になる学生に対し、授業料の一部(年間の授業料の半額又は4分の1相当額)を減免します。

(3) くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学 特待生制度〔新入生対象〕

別に定める特待生制度の項を参照してください。

(4) くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学 特待生制度〔在学生対象〕

本学の在学生(大学院を除く)で、特に優れた能力を持っており、心身共に健康で学術研究向上に熱意のある者に対して、次のいずれかの特典が与えられます。なお、特待生の採用は1年毎に行われます。

①授業料半額免除または給付

②授業料1/4免除または給付

(5) くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学 卒業生の子の入学金減免制度

受験生の父母が本大学・短大を卒業している場合、入学後、入学金に準ずる額が還付されます。

(ただし、特待生制度との併用はできませんが、特待生に選考された場合、特待生または本減免のどちらかのみを選ぶことができます。)

(6) くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学 兄弟姉妹が同時に在学する場合の授業料減免制度

本学に生計を一にする戸籍上の兄弟姉妹が同時在学する期間の2人目以降の学生の授業料の半額が還付されます。

(ただし、特待生制度との併用はできません。減免を受ける2人目以降の学生が特待生に選考された場合、特待生または本減免のどちらかのみを選ぶことができます。なお、1人目の学生の特待生制度利用への制約はありません。)

(7) くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学 教育ローン利子補給奨学金制度

本学の学生(入学予定者を含む)の内、経済的な理由により学費納入が困難なため、保護者等の学資支持者が、本学の指定する金融機関等から教育ローンの融資を受けた場合、学費相当額の借入金の在学中における利子相当額を奨学金として給付します。

(8) 松田藤子記念奨学金

創設者 故・松田藤子学園長の遺志にもとづいて、卒業年度において学資支持者の死亡、長期療養を要する疾病、自然災害被害等により学費納入が著しく困難と認められる者に、別に定める額を給付します。

(9) くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学 主要コンクール等入賞者褒賞

本学に在学中、国内外の主要コンクール入賞者はその榮譽をたたえ表彰します。

(10) 独立行政法人・日本学生支援機構 奨学金制度

日本学生支援機構は、独立行政法人日本学生支援機構法に基づいて日本育英会の権利・義務を継承し、平成16年4月に設立され、優秀な学生で大学長より推薦された学生に学費を貸与して、教育の機会均等をはかり、社会の健全な発展に貢献しようとする目的のもとに設立された国家的育英機関です。

①奨学金の出願資格

学業・人物ともに優秀かつ健康であり、学資の支弁が困難と認められる者。

②奨学金貸与月額及び貸与期間等

・貸与月額(平成28年度)

区分	自宅	自宅外	備考
第一種大学	54,000円	64,000円	無利息返還
第一種短期大学	53,000円	60,000円	
第一種	30,000円		
第二種	30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円の中から選択できる。有利息返還(3%を上限とする変動利息)		

※第一種奨学金と第二種奨学金の併用貸与も可能です。

※その他に、都道府県奨学金制度等がありますので、出身地の市町村役場窓口へご相談ください。

上記の他に都道府県奨学金制度等があります。詳細については出身地の市町村役場窓口等に相談してください。

○平成28年度採用実績

奨学金等	大学	短期大学
新入生授業料減免奨学生制度	6名	1名
授業料減免奨学生制度	17名	
特待生制度(新入生)	9名	2名
特待生制度(在学生)	45名	3名
卒業生の子の入学金減免制度	4名	2名
兄弟姉妹在学による授業料減免制度	13名	4名
教育ローン利子補給奨学金制度	1名	1名

※2018年度予定。募集内容は変更になる場合があります。詳細は教育支援室奨学金担当までお問い合わせください。

平成28年度決算について

平成28年度決算の概要は以下のとおりです。この決算は、5月23日に
行われた理事会・評議員会の承認を受けたものです。

資金収支計算書

当該会計年度に行った諸活動に対応する全ての資金の動きを記録すること
によって当該年度の収入と支出の内容を明らかにし支払資金の顛末を表
すものです。

【収入の部】

(単位：百万円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,101	2,101	0
手数料収入	32	34	△2
寄付金収入	105	114	△9
補助金収入	464	538	△74
資産売却収入	300	300	0
付随事業・収益事業収入	81	76	5
受取利息・配当金収入	34	44	△10
雑収入	61	79	△18
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	397	382	15
その他の収入	74	74	0
資金収入調整勘定	△399	△431	32
前年度繰越支払資金	4,568	4,568	0
収入の部合計	7,820	7,880	△60

【支出の部】

(単位：百万円)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,490	1,447	43
教育研究経費支出	539	447	92
管理経費支出	207	193	14
借入金利息支出	0	0	0
借入金返済支出	0	0	0
施設関係支出	79	72	7
設備関係支出	40	42	△2
資産運用支出	300	500	△200
その他の支出	127	133	△6
[予備費]	30	0	30
資金支出調整勘定	△93	△82	△11
翌年度繰越支払資金	5,101	5,129	△28
支出の部合計	7,820	7,880	△60

《資金収支の概要》

収入の大部分を占める学生生徒等納付金は21億100万円。寄付金収入は大学創立50周年記
念事業寄付金など予算比900万円増収の1億1,400万円。補助金収入は予算比7,400万円増
収の5億3,800万円となりました。

一方、主な支出については人件費支出が予算比4,300万円減額の14億4,700万円、教育研
究費支出が予算比9,200万円減額の4億4,700万円、管理経費支出が1,400万円減額の1億
9,300万円、資産運用支出が有価証券購入により予算比2億円増額の5億円となりました。

貸借対照表

期末（年度末）における資産・負債・基本金および収支差額を把握し、財務状態の健全性を表すものです。

【資産の部】

(単位：百万円)

科目	平成28年度末	平成27年度末	増減
固定資産	19,671	19,661	10
有形固定資産	15,459	15,640	△181
土地	5,733	5,733	0
建物	8,827	8,988	△161
構築物	72	83	△11
教育研究用機器備品	96	109	△13
管理用機器備品	16	19	△3
図書	712	704	8
車輛	2	3	△1
特定資産	1,872	1,926	△54
その他の固定資産	2,339	2,095	244
流動資産	5,216	4,645	571
資産の部合計	24,886	24,305	581

《貸借対照表の概要》

(資産について) 有形固定資産の建物、構築物、教育研究用機器備品等の減少の主因は
減価償却によるものです。

その他の固定資産の増加は有価証券の増加によるものです。

(負債について) 流動負債の減少は期末未払金が減少したことによるものです。

(純資産について) 本年度は翌年度の繰越収支差額が15億1,200万円の収入超過となっ
たこと等により純資産は23億9,400万円となりました。

事業活動収支計算書

従前の「消費収支計算書」の名称が平成27年の改正で「事業活動収支
計算書」に変更されました。

(単位：百万円)

科目	予算	決算	差異
収入の部			
科 目			
学生生徒等納付金	2,101	2,101	0
手数料	32	34	△2
寄付金	99	119	△20
經常費等補助金	463	528	△65
付随事業収入	81	76	5
雑収入	73	90	△17
教育活動収入計	2,850	2,950	△100
支出の部			
人件費	1,494	1,450	44
教員人件費	1,010	983	27
職員人件費	436	403	33
その他人件費	48	64	△16
教育研究経費	801	705	96
管理経費	245	236	9
徴収不能額等	1	1	0
教育活動支出計	2,541	2,391	150
収入の部と支出の部の差額	309	558	△249
受取利息・配当金	25	35	△10
その他教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	25	35	△10
借入金等利息	0	0	0
その他教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	25	35	10
經常収支差額	334	593	△259
特別収支			
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	8	18	△10
特別収入計	8	18	△10
資産処分差額	0	1	△1
その他の特別支出	0	2	△2
特別支出計	0	3	△3
特別収支差額	8	15	△6
[予備費]	30		30
基本金組入前当年度収支差額	313	608	△295
基本金組入額合計	△119	△115	△4
当年度収支差額	194	493	△299
前年度繰越収支差額	829	829	0
基本金取崩額	0	190	△190
翌年度繰越収支差額	1,023	1,512	△488
(参考)			
事業活動収入計	2,884	3,002	△119
事業活動支出計	2,571	2,394	177

「事業活動収支計算書」では、
経常的な収支のバランスと臨時的
な収支のバランスを区分して
表示します。

学生生徒等納付金とは、授業料、
入学金、教育運営費、実験実習費
等の学費収入です。

手数料は、入学検定料、試験料、
証明手数料とセンター試験の実施
手数料が主なものとなります。

寄付金には、資金収入の寄付金だけ
ではなく、現物寄付金が含まれます。

經常費等補助金は、国庫補助金、
地方公共団体補助金が中心です。

人件費は、教員人件費、職員人件費、
退職給与引当金繰入額などです。

教育研究経費は、教育研究活動に
必要な消耗品、旅費交通費、光熱
水費などすべての経費です。

管理経費は、教育研究の諸活動に関
連的に必要な消耗品等の経費です。

教育活動収支差額は、教育研究活
動に必要な人件費、教育研究経費
及び管理経費が教育研究活動によ
って得られた事業活動収入によっ
て回収されていることを示すもの
です。

教育活動外収支差額は、各種特定
資産の運用により生じる特定資
産運用収入や、これ以外の預金、貸
付金等に係る、受取利息・配当金
などで財務活動の収支バランスを
示します。

特別収支差額は臨時的な事業活
動に係る収支のことです。具体的
には、特別収入としては、資産売却
差額、施設設備寄付金、現物寄付
金、施設設備補助金、過年度修正額
などが該当します。また、特別支出
としては、資産処分差額、災害損
失、過年度修正額などが該当し、
臨時的な収支のバランスを示します。

基本金は、学校法人がその諸活動
の計画に基づき必要な資産を継続
的に維持するために事業活動収入から
積み入れるもので、①取得した固定
資産の価額、②計画に則して将来の
固定資産の取得に充てる額、③基金
として保持し、その運用果実をもち
て事業を行う金銭等の額、④学校法
人が円滑に運営されるために恒常的
に保持すべき額の4つがあります。

固定資産の取得や除却、計画の変更
などによりこの基本金の額に変更が
生じた場合にそれぞれ「組入額」「取
崩額」として示しています。

《事業活動収支の概要》

事業活動収入の大部分を占める学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金等の教育活動
収入の合計が予算に対して1億円の増収となりました。また、事業活動支出の大部分を占める人
件費、教育研究経費、管理経費等の教育活動支出の合計は予算に対して1億5,000万円の減額
となりました。よって教育活動収支差額は5億5,800万円の収入超過となりました。

事業活動全体では事業活動収入が30億200万円、事業活動支出が23億9,400万円となり
基本金組入前収支差額は6億800万円の収入超過となりました。また、当年度収支差額は4億
9,300万円の収入超過となりました。

【負債の部】

(単位：百万円)

科目	平成28年度末	平成27年度末	増減
固定負債	625	638	△13
流動負債	468	482	△14
負債の部合計	1,093	1,120	△27

【純資産の部】

(単位：百万円)

科目	平成28年度末	平成27年度末	増減
基本金	22,282	22,356	△75
第1号基本金	22,079	21,964	115
第3号基本金	30	167	△137
第4号基本金	172	225	△53
繰越収支差額	1,512	829	683
翌年度繰越収支差額	1,512	829	683
純資産の部合計	23,794	23,186	608

【負債及び純資産の部合計】

(単位：百万円)

科目	平成28年度末	平成27年度末	増減
負債及び純資産の部合計	24,886	24,305	581

※ 表示された数値以下の端数は個々に四捨五入してあるので、合計欄の数値と一致しない場合があります。

演奏会・公開講座等のご案内

7月 JULY

- 1日(土) セタヤングコンサート(音楽貢献実践)
6日(木) セタヤングコンサート(音楽貢献実践)
9日(日) セタヤングコンサート(音楽貢献実践)
11日(火) ~作曲専修生と教員による~「作品発表会」
18日(火) サマーヴォーカルコンサート
19日(水) モスクワ音楽院特別演奏コース前期学内公開演奏会IV
25日(火) 室内楽(木管)研究発表会
26日(水) 室内楽(Pf)研究発表会「Piano Duo Summer Concert」
29日(土) モスクワ音楽院特別演奏コース ~150年の伝統を受け継ぐ21世紀の音楽家たち~

8月 AUGUST

- 21日(月) 大学院サマーコンサート

9月 SEPTEMBER

- 10日(日) 作陽音楽短期大学演奏会

10月 OCTOBER

- 4日(水) 平成29年度 特待生コンサート(1,2年生)
11日(水) 平成29年度 特待生コンサート(3,4年生)&コンクール入賞者コンサート
12日(木) ヤングコンサート(音楽貢献実践)
13日(金) 2017作陽ファカルティコンサートI 竹内京子・居川寛子 ピアノデュオのタベ
26日(木) Music Gallery 2017

11月 NOVEMBER

- 12日(日) 第8回作陽JWAごども吹奏楽団定期演奏会
14日(火) 進学対策特別講座研究発表会
15日(水) モスクワ音楽院特別演奏コース後期学内公開演奏会I
16日(木) ヤングコンサート(音楽貢献実践)
26日(日) 教育系吹奏楽およびマーチングバンドDrum&Brass Corps "MUSICA" 研究発表会
29日(水) モスクワ音楽院特別演奏コース後期学内公開演奏会II

12月 DECEMBER

- 3日(日) 室内楽(打楽器)研究発表会 第45回作陽パーカッショングループコンサート
17日(日) くらしき作陽大学ウィンド・フィルハーモニー 特別演奏会
17日(日) クリスマスマヤングコンサート(音楽貢献実践)
19日(火) 室内楽(金管)研究発表会

12月

- 20日(水) モスクワ音楽院特別演奏コース後期学内公開演奏会III
23日(土) 第30回 日本伝統芸能・邦楽演奏会 さくよう歌舞座
24日(日) クリスマスマヤングコンサート(音楽貢献実践)

1月 JANUARY

- 16日(火) 室内楽(Sax)研究発表会
17日(水) モスクワ音楽院特別演奏コース後期学内公開演奏会IV
19日(金) 金管合奏研究発表会
19日(金) 第12回 音楽デザイン専修生作品発表会「ミライヘントピラ」
20日(土) ヤングホールコンサート(音楽貢献実践)
22日(月) 室内楽(Pf)研究発表会「Piano Duo Winter Concert」
23日(火) オペラ演習・重唱演習 研究発表会
24日(水) 合唱研究発表会「コーラル コンサート」
26日(金) 2017作陽ファカルティコンサートII 長瀬敏和 サクソフォニソリサイタル
28日(日) 演奏系吹奏楽研究発表会
30日(火) 2017作陽ファカルティコンサートIII 重利和徳 ピアノリサイタル

2月 FEBRUARY

- 9日(金) 大学院ハーフリサイタル
11日(日) 第15回 音楽のたね音楽会
17日(土) 大学院修了演奏会
18日(日) 大学院修了演奏会
23日(金) 室内楽(木管)研究発表会
24日(土) ひなまつりヤングコンサート(音楽貢献実践)
25日(日) ひなまつりヤングコンサート(音楽貢献実践)

3月 MARCH

- 3日(土) ひなまつりヤングコンサート(音楽貢献実践)
10日(土) 平成29年度 卒業・修了演奏会
11日(日) 平成29年度 卒業・修了演奏会
17日(土) ピアノフェスティバル

お問い合わせ先
くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学
演奏芸術センター086-523-0822
http://www.ksu.ac.jp/

メルマガ配信開始!
くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学の
演奏会・公開講座等の最新のイベント情報やお得な情報をいち早くお届けします。
SAKUYOメルマガ会員募集中
PCからはこちら! https://j.blayn.jp/bm/pf/ft.php?id=sakuyokikaku

◎ 気になる施設の見学や体験授業で、大学の雰囲気を知るチャンス

Open Campus 2017

7/22_[土]・23_[日] 8/20_[日] 9/9_[土]

※開催時間は日程により異なります。

JR新倉敷駅北口より無料送迎バスを随時運行します。

◎ 音大入試の傾向と対策を指導(対象:中学生以上)

作陽音楽講習会

要予約 要参加費 [音楽学部/短大 音楽専攻]

夏期 7/15_[土]・16_[日] 秋期① 9/16_[土]・17_[日] 秋期② 11/18_[土] 冬期 12/9_[土]・10_[日]

◎ 進学を考えている分野の授業・実習を体験できる(対象:高校生)

オープンセミナー

要予約 [食文化学部 現代食文化学科/短大 幼児教育専攻]

7/17_[月・祝] 8/8_[火] 9/16_[土] 11/18_[土] ※11月は現代食文化学科のみ開講

[会場] ぐらしき作陽大学 / 作陽音楽短期大学

資料請求
お申し込みは



フリーアクセスで申し込む
0120-911-394



Eメールで申し込む
nyushi.sakuyo@ksu.ac.jp



ホームページから申し込む

ぐらしき作陽大学

検索

ぐらしき作陽大学

作陽音楽短期大学

2017 SAKUYO OPEN SCHOOL

第1回 7月30日(日) 作陽の魅力体験しよう

第2回 10月28日(土) 作陽の教育内容を知ろう

第3回 11月23日(木・祝) 作陽選抜入試の対策をしよう

清陵祭 文化の部 9月1日(金) 体育の部 9月7日(木)

保護者対象 個別受験相談会 11月4日(土)・11月18日(土)・12月2日(土)

実施内容 授業体験、部活動体験、作陽教育・6コースの魅力紹介 施設紹介
入試問題対策講座・個人面接対策講座 津山FM 作陽疾風伝中継 e.t.c



百問は一見にしかず
☆お友達と一緒に来て下さい！
☆お楽しみ企画盛りだくさん☆



未来に差がつく“ワンランク上の充実感と満足度”

岡山県作陽高等学校



0868-23-2188



sakuyo@sakuyo-h.ed.jp



http://sakuyo-h.ed.jp



学園報に関するお問い合わせは

作陽学園事務局

学園報担当 (企画広報)

〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515
tel 086-523-0822 / fax 086-436-0283
Eメール sakuyo.kikaku@ksu.ac.jp